

兵庫県のテントウムシ(1)*

高橋 寿郎

筆者はかつて兵庫県のテントウムシをまとめ、発表したことがある(1958,1961)。それ以後の調査でかなりの追加種も現れている。現在、兵庫県からは73種のテントウムシを産することがわかっている。

日本に産するテントウムシは1996年末現在180種といわれている(佐々治,1997)。したがって、日本産の半分も兵庫県下では記録出来ていないのが現状である。しかしながら、兵庫県下にも未調査地が結構多く残っているし、また精度の高い調査をすればまだまだ産出種の増加は期待できる。そこで現時点での兵庫県産のテントウムシをここにまとめることにより、これからの調査の参考になればと思っている。

本文作製にあたっては標本の同定をお願いし、種々の御教示を頂き論文別刷等を頂いている福井大学の佐々治寛之博士、愛媛大学の宮武陸夫博士、久松定成博士に厚く御礼を申し上げる。

研究史

1873. Lewis, G. Notes on Japanese Coccinellidae
Ent. Month Mag. X; 54-56.

兵庫県産テントウムシについての初めての論文になるかと思う。Crotch, R. G. の同定になるものであり、兵庫県産として次の3種がいずれも新種として示されている。ただし、新種の記載はついていない。

p. 55. *Coccinella japonica* Crotch. Maiyasan, Hiogo; 2 specimens.

この種は Lewis が1879年に発表した論文の中で記載された *Novius concolor* Lewis "Hiogo, Maisan temple from which I possess a series" とされた種であり、現在 *Rodolia concolor* (Lewis, 1879) アカイロテントウになる。

p. 56. *Novius japonica* Crotch. Maiyasan, Hiogo = *Rodolia concolor* (Lewis, 1879) アカイロテントウ。

p. 56. *Platynaspis lewisi* Crotch. Maiyasan, Hiogo = *Rhmatosternus lewisii* (Crotch, 1874) ヨツボシテントウ。

1875. E. v. Harold. Verzeichniss der von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleoptern.
Abhandl. Nat. Ver. Bremen IV; 283-296.

Lenz, Tuison は商人として1874~1880年の間、神戸に在留した。その間に甲虫類を採集し、その採集品を基にして Harold は2篇の論文を発表しており本論文はその第一報である。

本論文には47種の甲虫が記録されている。うち8種は本論文で新種として発表したものである。産地は明確に記録されていないが、神戸産(Hiogo)のものが大部分と考えられる。ただ、若干問題のある種もある。テントウムシ科は3種が記録されている。

p. 296. 45. *Coccinella Besseri* Gold. = *Coccinella septempunctata* Linnaeus ナナホシテントウ。

46. *Coccinella transversoguttata* Fald. = *C. explanata* Miyatake ココノホシテントウ。

47. *Epilachna 26-maculata* Motsch. オオニジュウヤホシテントウ。

1876. E. v. Harold. Bericht über eine Sendung Coleopteren aus Hiogo.

Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V; 115-135.

T. Lenz の採集品に基づいて Harold が1875年に発表した論文の第2報である。全部で49種記録され、うちに1新属、3新種の記載がある。産地は表題のごとく Hiogo (神戸) である。テントウムシは2種記録されている。

p. 135. 48. *Coccinella Bruchi* Mull. = *C. septempunctata* Linne ナナホシテントウ。

49. *Chilomenes quadriplagiata* Swarte = *Meno-chilus sexmaculatus* (Fabricius) ダンダラテントウ。

1879. Heyden, L. Die Coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875.
Deut. Ent. Zeit., XXIII, Heft. II; 321-365.

本篇は Prof. Dr. Rein John J. の日本での採集品のうち甲虫類のみを同定した報文である。

Dr. Rein は明治8, 9年の2年間、東京ドイツ大使館の顧問として日本に滞在、その間漆器や陶磁器、製紙等について調査する一方、前後6回にわたり日本の本州、四国、九州を丹念に歩いて昆虫各目の採集をした。6回の採集で235日を費やしていると、そのうち2回神戸での採集があるが、いずれも時期が良く6, 7, 8月の昆虫最盛期を神戸で採集されたので、この報文に報ぜられた日本産昆虫類152種のう

* 兵庫県甲虫相資料-359

ち兵庫県からの記録は66種で、一番多く記録している(もともと Lewis 等の記録も含んでいる)。テントウムシは残念ながら1種しか記録されていない。

p.365. 148. *Coccinella Brucki* Mulsant = *Coccinella septempunctata* Linne ナナホシテントウ, Hyogo.

1879. Lewis, G. On certain new Species of Coleoptera from Japan.

Ann. Mag. Nat. Hist. V(5):459-467.

表題のごとく日本産甲虫類26新種の記載であるが、兵庫県からの記載が6種あり、テントウムシは1新種が記載されている。

p.466. *Novius concolor* Lewis = *Rodolia* アカイロテントウ, Hiogo, Maiyasan temple, from which I possess a series.

1887. Schönfeldt, H.V. Catalog der Coleoptern von Japan mit Angabe bezüglichlichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.

Jahrbd. nass. Ver. f. Naturkunde, 40:31-204.

今までの日本から記録された甲虫類のリストで、原記載名も一緒に示している。この目録での新種記載というのではない。記録された種が現在の知見では学名が変わらなくてはならないものを整理して、シノニムで消えるもの等もある。Hiogo, Kobe の産地の書かれているテントウムシは8種ある。

p.192. *Coccinella septempunctata* L. ナナホシテントウ, Japan, Kiushiu, Mino, Hiogo.

p.193. *C. transversoguttata* Fald. = *C. explanata* Miyake ココノホシテントウ, Hiogo.

C. (Ptychanatis) axyridis Pall (1773) = *Harmonia axyridis* (Pallas) ナミテントウ, Hiogo.

Halycia (Calvia) quindecimguttata Fabr. = *Illes koebelei* Timberlake キイロテントウ, Hiogo, Echizen.

Halycia (Propylea) conglobata L. var. *fimbriata* Suez. = *Propylea japonica* (Thuverg) ヒメカメノコテントウ, Mino, Hiogo.

p.194. *Chilomenes quadriplagiata* Swartz. = *Phymatosternus lewisii* (Crotch) ヨツボシテントウ, Hiogo.

Chilocorus similis Rossi = *Chilocorus kuwanae* Silvestri ヒメアカボシテントウ, Hiogo.

p.195. *Novius limbatus* Motsch. = *Rodolia limbata* (Motschulsky) ベニヘリテントウ, Hiogo.

1896. Lewis, G. On the Coccinellidae of Japan.

Ann. Mag. Nat. Hist. Ser.6, XVII:22-41.

日本産テントウムシ科2新属, 18新種, 39既知種の記載。兵庫県産は次のごとき種が記録されており, 1新種記載を含む。

p.25. *Anisosticta kobensis* Lewis (新種) ジュウクホシテントウ, Kawasaki, near Kobe, a small series found under in September*.

p.28. *Coccinella Crotchii* Lewis = *Coccinula* マクガタテントウ, Maiyasan.

p.29. *Thea 12-guttata* Poda = *Vibida duodecimguttata* シロホシテントウ, Kobe.

p.31. *Chilomenes 4-plagiata* Schnherr = *Menochilus sexmaculatus* (Fabricius) ダンダラテントウ, Kobe.

p.32. *Sticholotis substriata* Crotch メツブテントウ, Kobe.

Sticholotis punctata Crotch ムツボシテントウ, Kobe.

p.34. *Platymaspis Lewisii* Crotch = *Phymatosternus* ヨツボシテントウ, Kobe.

p.37. *Scymnus Hareja* Weise = *Pseudoscymnus* ハレヤヒメテントウ, Kobe.

Scymnus hoffmanni Weise クロヘリヒメテントウ, Kobe.

p.40. *Rodolia concolor* Lewis アカイロテントウ, Kobe.

1897. Schonfeldt, H.v. Catalog der Coleoptera von Japan. Dritter Nachtrag.

Jahrb. d. nass. Verf. Nat. 50:99-144.

このカタログで Kobe 産テントウムシが次のごとく記録されている。これ等は1896年の Lewis の論文をそのまま引用しているものである。

p.140. *Anisosticta kobensis* Lewis ジュウクホシテントウ, Kawasaki bei Kobe, Niigata, Honjo.

p.141. *Hippodamia tredecimpunctata* Linn. ジュウサンホシテントウ, Kawasaki, bei Kobe, Nikko.

Lewis の1896年の論文によると Kawasaki and Nikko; two examples only とあり、前の種の所で Kawasaki, near Kobe とあるので Kawasaki を Kobe の近くにある地名と考えてこう記したと思われるが、この Kawasaki は Kobe の近くではないと考えら

*「西撰大観」によれば、川崎は澗川が海に注ぐ所、つまり澗川の先端という意味で名づけられたとある。元正八年(1580)の兵庫築城の前からあった名前だといわれている。

れる(もっとも神戸市内に川崎町という所はあるが, Lewis が来た頃ここを川崎とっていたのかどうかよくわからない). 種から判定して神戸産でないように思われるが—.

Coccinella Crotchii Lewis = *Coccinula* マクガタテントウ, Oyayama, Awomori, Masasan, Sapporo.
Thea duodecimguttata Poda = *Vibida duodecimguttata* シロホシテントウ, Kobe, Kamiuchi, Yokohama.

p.142. *Chilomenes quadriplagiata* Swartz = *Menochilus sexmaculatus* (Fabricius) ダングラテントウ, Nagasaki, Kobe.

Sticholotis punctata Crotch. ムツボシテントウ, Nagasaki, Kobe, Yokohama.

Sticholotis substriata Crotch. メツブテントウ, Nagasaki, Kobe, Yokohama.

p.143. *Platynaspis Lewis* Crotch = *Phymatostermus* ヨツボシテントウ, Tokio, Kobe, Yokohama.

Scymnus Hareja Weise = *Pseudoscymnus* ハレヤヒメテントウ, Hagi, Mayasan bei Kobe.

Scymnus Hofmanni Weise クロヘリヒメテントウ, Kobe, Yokohama, Nagasaki.

p.144. *Rodolia concolor* Lewis アカイロテントウ, Kobe, Nara.

1902. 大上宇一 播磨産甲虫報知.

動物学雑誌14(167);344-348.

テントウムシ科は次のごとく記録されている. 全部和名だけの記録であるから, 1種についてはどのような種に当たるのかかわからないのがある.

p.344. 216. テントウダマシ=ニジュウヤホシテントウ

217. シロホシテントウムシ. 218. コシロホシテントウムシ?. 219. ナナホシテントウムシ. 220. マクガタテントウムシ. 221. ヒメカメノコテントウ. 222. キイロテントウ. 223. カメノコテントウムシ. 224. オホテントウムシ=オオテントウムシ. 225. アカホシテントウムシ=アカホシテントウ. 226. ヒメアカホシ=ヒメアカホシテントウ. 227. コクロテントウムシ=コクロヒメテントウ. 228. アトボシテントウムシ=フタモンクロテントウ. 229. テントウムシ.

1907. 大上宇一 播磨産甲虫類(承前)

昆虫世界11(118);243-245.

次のテントウムシ類が記録されている. ただし詳しいデータその他は全くついていない.

p.245. 283. ナ>ボシ (*Coccinella 7-punctata* L.) = *Coccinella septempunctata* Linne ナナホシテントウ

284. 大白星 (*C. 12-maculata* G.) = *Vibida duodecimguttata* (Poda) シロホシテントウ

285. ヒメアカボシ (*Chilocorus similis* Rosusi) = *Chilocorus kuwanae* Silvestri ヒメアカボシテントウ

286. アカボシ (*C. tristis* Fald.) = *Chilocorus rubidus* Hope アカボシテントウ

287. テントウ (*Ptychanatis axyridis* Pallas) = *Harmonia axyridis* (Pallas) ナミテントウ

288. アトボシ (*Cryptogonus orbiculus* Gyll.) = *Cryptogonus arbiculus* (Gyllenhal) フタモンクロテントウ

289. 大テントウ (*Synonycha grandis* Thub.) = *Synonycha grandis* (Thunberg) オオテントウ.

290. テントウダマシ (*Epilachna 28-maculata* Mots.) = *Epilachna vigintioctopunctata* (Fabricius) ニジュウヤホシテントウ

291. シロボシ (*Vibibia 12-gutta* Poda) = *Vibida duodecimguttata* (Poda) シロホシテントウ

292. 大カメノコ (*Ithone hexaspilota* Hope) = *Aiolocaria hexaspilota* (Hope) カメノコテントウ

293. ヒメカメノコ (*Propyrea conglobata* L.) = *Propyrea japonica* (Thunberg) ヒメカメノコテントウ

294. コグロテントウ (*Scymnus hiliaris* Motsch.) = *Scymnus posticalis* Sharp コクロヒメテントウ

295. ベニヘリ (*Novulus limbatus* Motsch.) = *Rodolia limbata* (Motschulsky) ベニヘリテントウ

296. マクガタ (*Coccinella crotchii* Lew.) = *Coccinula crotchii* (Lewis) マクガタテントウ

297. カメノコ (*C. japonica* Thunb.) = *Propyrea quatuordecimpunctata* (Lewis) コカメノコテントウ

298. キイロテントウ (*C. 10-punctata* Var.?) = *Illies koebelei* Timberlake キイロテントウ

299. 大二星 (*Scymnus* sp.?) = *Hyperaspis japonica* (Crotch.) フタホシテントウ

1922. 栗崎真澄 日本産ナナホシテントウ属に就きて.

動物学雑誌 XXXIV;534-544.

次の兵庫県産の記録がある.

p.536-537. 2. *Coccinella 7-punctata* Linn. var. *Brensk* Mus. オホナナホシテントウ.

- 産地。九州,本土(筑面,兵庫)とある。ナナホシテントウに扱っていいと考える。
- p.539. 8. *Coccinella transversoguttata* Fald. クロオビテントウ
産地。北海道(函館,札幌),本土(新潟,兵庫)とある。*C.explanata* Miyatake ココノホシテントウのことであると考える。
1929. Ohta, Y. *Symninen Japans*
Ins. Mats., 4(1/2);1-16.
日本産ヒメテントウ族の1新属,1未記録属,11新種,1新亜種,10異常型の記載。兵庫県産は2種3新異常型が記録されている。
- p.3. *Pullus niponicus* Lewis ab. *munagronis* Ohta, Takasago.
Pullus niponicus Lewis ab. *nigriceps* Ohta, Takasago.
ともに *Scymnus* (*Neopullus*) *fuscatus* Boheman カバイロヒメテントウのことである。
- p.8. *Pullus hilaris* Motsch. ab. *awanus* Ohta = *Scymnus* (*Pullus*) *ishihai* M.Araki コクロヒメテントウ, Takasago.
1931. 福賀正三 カメノコテントウに就いての小観察。
関西昆虫学会々報 (2);134.
兵庫県猪名川軍行橋付近の柳の木での観察。
1936. 田中喜洋 長田・名倉(神有電鉄長田)付近の甲虫分布。
Nature(神戸二中博物研究会々誌)(4);27-30.
神戸電鉄の長田駅付近の甲虫の記録であるが和名のみである。現在はすっかり変わってしまっているので当時を知る者としては感無量である。テントウムシ科として次の4種が記録されている。テントウムシ, ナナホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ。オオニジュウヤホシテントウのこの地方での産には若干問題がありそうに思われる。
1936. 戸澤信義 紫水遺稿, 別巻。
芝川家所蔵昆虫標本目録 A5,333p.
芝川又之助のコレクション目録で, 鈴木元次郎, 福賀正三, 玉沢修三郎に戸澤信義がまとめられたものである。全体からすれば2,380種が収録されていることになる。産地の記入されていない種もある。兵庫県産としての記録がある種が56種ある。うちテントウムシ科は5種記録されている。
- p.79. 651. *Harmonia axyridis* Pallas テントウムシ = *Harmoni axyridis* (Pallas,1773) ナミテントウ, 須磨。
653. *Propylea conglobata* Linnaeus ヒメカメノコテントウ = *Propylea japonica* (Thunberg,1781) ヒメカメノコテントウ, 須磨。
654. *Chilocorus similis* Rossi ヒメアカホシテントウ = *Chilocorus kuwanae* Silvestri,1909 ヒメアカホシテントウ, 須磨。
656. *Novius limbatus* Motschulsky ベニヘリテントウ = *Rodolia limbata* (Motschulsky,1866) ベニヘリテントウ, 須磨。
- p.80. 660. *Epilachna nipponica* Lewis オオニジュウヤホシテントウ = *Epilachna nipponica* Lewis オオニジュウヤホシテントウ = *Epilachra vigintioctomaculata* Motschulsky,1857 オオニジュウヤホシテントウ, 甲東園。
1939. 安谷英也 瓢虫科の翅鞘に現れた斑紋の左右不相稱変異。
昆虫界 7(68);618-619.
神戸産ヒメカメノコテントウ, ナナホシテントウの斑紋の変異。
1940. 高橋寿郎 神戸再度山附近産の甲虫目録(2)。
昆虫世界 44(511);76-79.
表題のごとく再度山付近の甲虫目録で, テントウムシ科は次の10種を記録(学名の変わるものあり)。シロホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, アトホシヒメテントウ, ムヂテントウ=アカイロテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, ニジフヤホシテントウ, ナナホシテントウ, テンタウムシ=ナミテントウ, ベニヘリテントウ, ヒメアカホシテントウ。
上記のうちオオニジュウヤホシテントウは同定誤りである。
1940. 高橋寿郎 神戸産甲虫雑記(4) 観察 (1);4-6。
本報文においてオオニジュウヤホシテントウは神戸に産しないだろうとの考えを述べた。
1941. 増田寛 ナナホシテントウ新異常型二種に就いて
昆虫界 9(84);65-66。
神戸産(高取山産)ナナホシテントウにおける斑紋変異について, 異常型として命名しているが異常型

として変異の中の中に入るもの。

1941. 増田 猛・橋本直也 一中附近の昆虫。

A5,39p.(孔版・単行本)。

神戸一中(現神戸高校)付近産の蝶と甲虫の目録である。データは無い。同定の誤りもあるようだし現在の知見からかなりの学名の変更などもある。テントウムシ科は14種記録されている(p.6-7)。

シロホシテントウ, クロヒメテントウ, クワナヒメテントウ(学名からフタホシテントウ), ヒメカメノコテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ), ナナホシテントウ, アカイロテントウ, キイロテントウ, ニジュウヤホシテントウ, ハラグロオオテントウ, ヒメアカボシテントウ, ベタリヤテントウ, アカヘリテントウ, ベニヘリテントウ(学名から一つ前のアカヘリテントウもこのベニヘリテントウと同じ)。

1943. 高橋寿郎 神有沿線甲虫相(三)。

昆虫世界 47(545);12-15。

テントウムシ科の13種の記録をしている。データはつけてない。シロホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ヨツボシテントウ, ベタリアテントウ, アトホシヒメテントウ(=フタホシテントウ), ムヂテントウ(=アカイロテントウ), オホニジュウヤホシテントウ(?), ニジュウヤホシテントウ, ナナホシテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ), ベニヘリテントウ, ヒメアカボシテントウ, ジュウロクテントウ(=ジュウロクホシテントウ)。

1950. 樋口繁一・橋本一廣・山田重次 有馬郡の甲虫。

有馬郡生物誌(兵庫県立有馬高等学校普通科生物教室刊);117-124。

次のテントウムシ科の記録あり(データなし。現在の呼称に変えて記す。学名など訂正を要するものあり)。

p.119. ジュウニホシテントウ(=シロジュウニホシテントウ), キイロテントウ, アカボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ナナホシテントウ, トホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ)の8種。

1955. 安江安宣 近畿西部におけるニジュウヤホシテントウの分布地の新記録。

昆虫 23(1);41。

加古川~氷上郡にかけての分布。

1955. 近畿甲虫同好会編 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編・増補改定版。274p.68Col.pl. (保育社・大阪) 兵庫県産テントウムシ次の図説あり(テントウムシ科担当 中根猛彦博士)。

pl.40,f.912,p.129. ニジュウヤホシテントウ, 六甲山。f.921,p.130. マクガタテントウ, 伊丹。f.936,p.131. ハラグロオオテントウ, 西宮。f.937. オオテントウ, 谷上。

1956. 高橋寿郎 きれいな甲虫。

兵庫県生物誌 pp.58-61。

(兵庫県生物学会編・神戸新聞社刊)

ジュウクホシテントウについて解説。

1958. 高橋寿郎 兵庫県産テントウムシ類。

兵庫生物 3(4);258-264,305。

当時の知見による兵庫県産テントウムシ類のまとめを発表した。現在の知見からすれば同定の誤りとか学名が変わるものなどがあるし、神戸市中心のまとめであるから分布などもっと広く詳しくわかっていて。記録した種は次のとおりである。

オオニジュウヤホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ベタリヤテントウ, アカイロテントウ, ベニヘリテントウ, アミダテントウ, キアシクロヒメテントウ, コクロヒメテントウ, アカスジヒメテントウ(=カパイロヒメテントウ), オオヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, キアシヒメテントウ(=ハレヤヒメテントウ), ウスフタホシテントウ(=フタホシテントウ), ヨツボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, オオテントウ, ハラグロオオテントウ, カメノコテントウ, マクガタテントウ, ナナホシテントウ, クロオビテントウ(=ココノホシテントウ), テントウムシ(=ナミテントウ), シロジュウゴホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ウスキホシテントウ, ウンモンテントウ, ジュウロクテントウ(=ジュウロクホシテントウ), キイロテントウ, ジュウクホシテントウ, シロホシテントウの32種。

1958. 山本纏丸 兵庫県氷上郡昆虫目録。

兵庫県立柏原高校生物研究会 NATURA 特別号。氷上の自然, 第3集。

次のテントウムシの記録がある。

p.88-89. ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ベニヘリテントウ, アカヘリテントウ, ヒメカメノコテントウ, ウスフタホシテントウ, ナナホシテントウ, マクガ

- タテントウ, テントウムシ, ウスキホシテントウ, シラホシテントウ, キイロテントウ, ハラグロオオテントウ, カメノコテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, クビアカヒメテントウ, コクロヒメテントウ, キアシヒメテントウ, アカスジヒメテントウの21種。
1959. 堀田 久 淡路島産甲虫目録(2).
兵庫生物 3(5);376-378.
テントウムシ科として, ナナホシテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ), ヒメカメノコテントウの3種の記録。
1960. 須原ひでみ 妙高山採集記.
Natura (17);23-24.
ナミテントウ, ハラグロオオテントウの記録あり。
1960. 村上雅昭 扇ノ山の甲虫.
Natura (17);33-35.
ナミテントウ, ニジュウヤホシテントウの記録。
1960. 高橋 匡 水上郡昆虫目録追加(第1報).
Natura (17);100-105.
ヨツボシテントウ, シロジウゴホシテントウ(春日町), ジウロクテントウ(山南町), ベタリアテントウ(柏原駅), アカスジヒメテントウ(奇壇町, 水上町)の記録あり。
1961. 高橋寿郎 兵庫県産テントウムシ類(第2報).
兵庫生物 4(2);108,96.
兵庫県産テントウムシ類の追加種として次の記録をした。アカヘリテントウ, シロジウホシテントウ, クロツヤテントウ, ツマフタホシテントウ, ダンダラテントウ, ヨツボシテントウ, 他に学名変更とか産地追加をも加えた。
1961. 足立 勲 扇ノ山採集記.
Natura (18);29-35.
オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウの記録。
1962. 甲虫班 六甲山系甲虫類目録(II).
Shida(兵庫県立長田高校生物部)(10);11-20.
テントウムシ科10種の記録。
ベニヘリテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, キイロテントウ, ヒメカメノコテントウ, カタバシテントウ, シラホシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ウスモンテントウ, ニジュウヤホシテントウ。
1963. Araki, M. Descriptions of four new species of the genus *Scymnus* from Japan. (Coleoptera :Coccinellidae).
Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ.,3(5)A;251-255. p.253-255, fig.
Scymnus (*Scymnus*) *nakanei* M.Araki ナカネヒメテントウ
大台ヶ原, 篠山産でもって新種記載されている。現在 *Pseudoscymnus* 属。
1963. 辻 啓介 但馬扇ノ山甲虫目録(1).
兵庫農大生物研究部々誌 (3);24-47.
扇ノ山でのテントウムシの記録, 10種あり。シロトホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ベニヘリテントウ, ヒメカメノコテントウ, ナナホシテントウ, テントウ, キイロテントウ, ウスフタホシテントウ, コクロヒメテントウ。
1963. 高橋 匡 出石郡昆虫目録第1報.
VITA (1);1-34. (ref.p.22-23)
(兵庫県立出石高等学校科学部生物班刊)
次のテントウムシの記録がある。
オオニジュウヤホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, コクロヒメテントウ, セスジヒメテントウ, クロヘリヒメテントウ, フタホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, ナナホシテントウ, マクガタテントウ, テントウムシ, シロジウシホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, シロホシテントウ, ウスキホシテントウ。
1965. 昆虫班 西脇・多可八千代昆虫目録.
会報(西脇自然同好会)1(1);46-58. (ref.p.53).
テントウムシ8種の記録。
ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ナナホシテントウ, テントウムシ, オオテントウ, カメノコテントウ。
1970. 仲田元亮 能勢の昆虫(甲虫)
B5,107p.自刊。
テントウムシは次の9種が記録されている。テントウムシ, ナナホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, ヨツボシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, フタモンク

ロテントウ, ジュウロクテントウ.

1970. Miyatake, M. The East-Asian Coccinellid-Beetles Preserved in the California Academy of Sciences, Tribe Chilocorini.

Mem. Coll. Agric. Ehime Univ. 14(3);19-56.

標題のごとく California Academy of Sciences 所蔵の Chilocorini 族の東亜産テントウムシの分類学的研究であるが, 次の兵庫県産の種の記録がある.

p.318-319. *Chilocorus rubidus* Hope アカホシテントウ

1ex., Kobe, Harada, Japan, VIII.31.1911. 1ex., (f. *fenestratus* Weise) Harima, Japan, V.1916. Van Dyke in California Academy Science.

p.327-329. *Chilocorus kuwanae* Silvestri ヒメアカホシテントウ

1ex., Kobe, Harada, V.8.1909, J.C.Tompson. 2exs., Awajishima, VI.17.1909, Thompson. 1ex., Kobe, VI.1910, Thompson(?).

1971. Sasaji, H. Fauna Japonica, Coccinellidae. (Insecta: Coleoptera). 340p. 16 Col. plats.

日本産テントウムシ科の総説である. この中で次のごとく兵庫県産の記録が収録されている.

p.155-156. ツマアカヒメテントウ (Hyonosen)

p.156-158. ニセツマアカヒメテントウ (Hyonosen)

p.161-162. ナガヒメテントウ (Hyonosen)

p.248-249. ジュウクホシテントウ (Kobe)

p.259. ウスキホシテントウ (Mt. Rokko)

p.284. クロスジチャイロテントウ (Nishinomiya)

1972. 辻 啓介 兵庫県からの新しい甲虫 その1. 兵庫生物 6(3);243.

Serangium punctum Miyatake, 1963 ズグロツヤテントウ 扇ノ山, 1♀, 11.VI.1961 の記録.

1972. 辻 啓介・岸田剛二 但馬扇ノ山の甲虫目録. 「扇ノ山周辺の動物(I)」 B5, 48p.

(兵庫県自然保護協会調査資料第1集)

扇ノ山産の次のテントウムシ13種の記録がある (p.33-34, 46).

トホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, ベニヘリテントウ, コクロヒメテントウ, ウスフタホシテントウ, ズグロツヤテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, シロホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, ニジュウヤホシテ

ントウ, ヒメアカホシテントウ.

1973. 高橋寿郎 兵庫県産甲虫相資料-38 1972-1973年度採集の記録を中心として.

MDK NEWS 25(2);13-16.

テントウムシが次のごとく記録されている.

ムクゲチビテントウ, クロツヤテントウ, クロジユウニホシテントウ, ムツボシテントウ, トビイロヒメテントウ, アカヘリテントウ, アラキシロテントウ.

1973. 宮武陸夫・古木芳枝ほか 本四架橋ルートの島々の昆虫相.

本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書 p.153-198.

学術調査編(動物部門)財団法人国立公園協会.

p. 187-188.

テントウムシ科次のとおり記録(淡路島からの記録).

クロツヤテントウ, ハレヤヒメテントウ, オニヒメテントウ, カワムラヒメテントウ, コクロヒメテントウ, *Scymnus* sp., クロヘリヒメテントウ, フタホシテントウ, クロテントウ, ヒメアカホシテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ムーアシロホシテントウ, ナミテントウ, キイロテントウの15種.

1974. 畑中 熙・辻 啓介 家島の甲虫ノート.

きべりはむし 2(2);22.

ナナホシテントウの記録.

1974. 高橋寿郎 風物誌(137) 甲虫(続).

山陽ニュース (295);13.

次のテントウムシについて解説.

ベタリヤテントウ, ナミテントウ, ナナホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, カメノコテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ.

1974. 高橋寿郎・辻 啓介 中国山脈東端の甲虫相. 東中国山地自然環境調査報告 pp.173-233

(ref.p.211-212).

テントウムシ類次のように記録. 産地は矢粟郡音水, 赤西, 養父郡氷の山, 美方郡扇の山.

ムクゲチビテントウ, クロツヤテントウ, ツグロテントウ, ムツボシテントウ, ハレヤヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, セスジヒメテントウ, トビ

イロヒメテントウ, ツマアカヒメテントウ, ニセツマアカヒメテントウ, カワムラヒメテントウ, ナガヒメテントウ, クロヒメテントウ, オオサカヒメテントウ, コクロヒメテントウ, フタモンクロテントウ, フタホシテントウ, ツマフタホシテントウ, アミダテントウ, ヨツボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ベニヘリテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, シロトホシテントウ, シロジウシホシテントウ, シロジウゴホシテントウ, ウンモンテントウ, テントウムシ, ダンダラテントウ, カメノコテントウ, ケイロテントウ, シロジウニホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ.

1974. 芳賀 馨 テントウムシの大群を目撃.

昆虫と自然 9(14);8.

東灘区での観察.

1974. 宮武陸夫・古木高枝ほか 本四架橋ルートの島々の昆虫相.

本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書(その2) 学術調査編・動物部門;75-96.

淡路島より次のテントウムシの記録.

p.動物88. ムモンヒメテントウ, ベニヘリテントウ, ニジュウヤホシテントウ.

1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 B5,66p.

但馬地方産テントウムシ, 次のごとく記録あり(p.15-16).

トホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, コクロヒメテントウ, チビクロテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, カメノコテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ウスキホシテントウ, シロトホシテントウ, ウンモンテントウ, ヒメカメノコテントウ, ケイロテントウ, シロホシテントウの16種.

1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室 B5,24p.

但馬地域産テントウムシ.

アミダテントウ, セスジヒメテントウ, ウスフタホシテントウ, ムツボシテントウ, ヨツボシテントウの5種記録.

1976. 奥谷禎一 広域基礎林道予定地域自然環境調査報告書・IV昆虫類調査.

(兵庫県農林部治山課)

I. 播但基幹林道 テントウムシ科(担当 遊磨正秀).

ベニヘリテントウ, トホシテントウ 2種の記録.

II. 播磨中部高原・広域基幹林道(担当 高橋寿郎)

テントウムシ科

ハレヤヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, アトホシヒメテントウ, コクロヒメテントウ, オオサカヒメテントウ, フタホシクロテントウ, フタホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, ベニヘリテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ウンモンテントウ, テントウムシ, カメノコテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオテントウの18種記録.

1976. 高橋寿郎 淡路島の甲虫相.

PARNASSIUS (16);3-9.

淡路島特産テントウムシとしてムモンヒメテントウ, オニヒメテントウを記録.

1976. 堀田 久 先山の昆虫相(I).

PARNASSIUS (16);11-32.

テントウムシとしてハレヤヒメテントウ, カワムラヒメテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ケイロテントウ, ムモンヒメテントウ, ベニヘリテントウの7種記録.

1976. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 p.9.

フタホシテントウの記録(竹野).

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)